



# 公立小浜病院が生まれ変わりました

平成十七年十月に始まった「高度医療施設整備事業第二期工事」。八月三十一日にすべての工事が完了し、十月十日、「救命救急センター」の運用が始まりました。また、嶺南

地域で初めての導入となるPET・CTなどの「高度医療機器」を設置するとともに、「杉田玄白記念公立小浜病院」と名称を変更しました。その概要をお知らせします。



本館

## 【概要】

二階建ての救命救急センターと九階建ての病院本館部分が完成しました。本館の三階から八階部分が病棟となり、病床数は四百十八床から四百五十床に増えました。

## 【救命救急センターの設置】

県下では県立病院に次いで二番目となる「救命救急センター」をこのほど新設しました。

同センターは厚生労働省の認可施設で、嶺南地方全域を受け持ちます。今までも、同病院は二十四時間、三百六十五日、救急の患者を診察してきましたが、施設面でも設備面でもその内容がより高度になりました。

重症の患者は、新たに設置された

- ICU（集中治療室）
- CCU（心臓の冠動脈疾患をケアするセンター）

で治療を受けることとなります。

ここでは、高度なケアを二十四時間提供できるようにスタッフを配置しています。

## 【高度医療機器の設置】

- PET・CT（陽電子断層撮影装置）

新たに設置された最新の機器です。がんの早期発見、治療経過の観察にたいへん優れていて、脳や心臓の病気の検査にも有用です。ポジトロン断層法とCTの機械が組み合わさったもので、最先端のがん対策の機器です。

- IVRアンギオCT（血管造影装置）

今まで使用していた血管造影装置にCT装置を組み合わせた装置です。CT装置と同じ検査台を使用するため、診断治療が早く正確に行えます。



- 全身用CT装置

今まで使用していた機器が最新の機器になりました。最も高度な機器で、一回の撮影で六十四枚撮ることができます（今までは四枚）。

- MRI（磁気共鳴断層撮影装置）

今まで使用していた機器が最新の機器になりました。三十分～六十分かかっていた検査時間が、検査によっては十分程度に短縮されます。



ICU (CCU) 集中治療室 (5床)  
※個室が別に2床あります



IVR アンギオCT



PET-CT





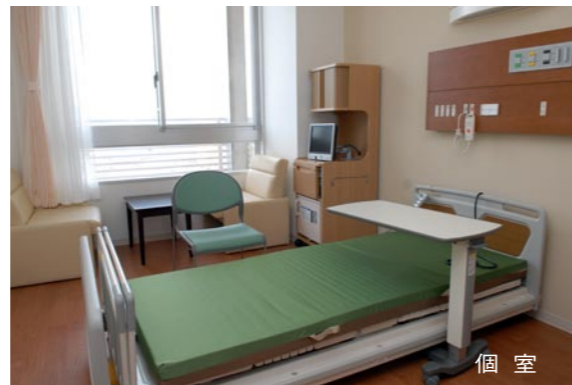
杉田玄白記念公立小浜病院長  
小西 淳一 先生（四谷町・67歳）

今回の目玉は、「救命救急センター」の設置ですね。本来、厚生労働省から認可を受ける救命救急センターは百万人にひとつの規模で、福井県では県立病院だけになります。しかし、地域が広く離れているため、県で二番目の新型として認可を受けました。新型とは人口30万人程度を対象とするもので、どんな症状でも診ることができるフルサイズの救命救急センターではありませんが、救急科医をはじめとするスタッフが待機しています。

また、高度医療施設整備事業第二期工事の完成により、嶺南の方が遠方の病院に行かなくても高度な治療ができるようになりました。診断面では、検査機器が最新のものになり、IT化も進んだことにより、短時間で検査データやよい画像を得ることができるようになりました。

これにより、いざというとき安心して高度な医療を受けることができるようになり、入院時の療養環境も改善されました。

健診部も新しくなりましたので、ご活用いただければと思います。



個室



健診部（6床）



血液浄化部（人工透析）

【療養環境の整備】

病棟では六床室がなくなり、個室と四床室の二種類になりました。以前よりも広い部屋になり、トイレや洗面所が付くなど、患者のアメニティも改善されました。  
また、各階に一室ずつ特別室（有料）が設けられています。

【健診部を設置】

県の健康診断施設「若狭健康診断室」を譲り受け、二階に健診部を設置しました。一日ドックが中心ですが、二日ドックのために六床設置しています。ホテル式の部屋で快適に受診することができます。

これからは病気の予防、早期発見が大切です。それには、メタボリック症候群や生活習慣病などの対策に力を入れ、健康管理のデータを収集することが大事です。もし異常があれば小浜病院でそのまま治療をすることが出来ます。

【その他】

①人工透析設備の充実  
需要増に因應するため、血液浄化部を設置。人工透析のベッドを二十床から四十二床（うち個室二床）に増やしました。

②災害時対策の強化

免震構造の建物なので、地震時でも安全です。地域の防災という面でも役立てられます。

③オーダーリングシステム

今までは外来のみ対応していましたが、病棟もコンピュータを進め、各詰め所でいろいろな検査のオーダーをしたり、結果のレポートを受け取ったりできるので効率がよくあります。

「杉田玄白記念公立小浜病院」  
に名称を変更しました



十月一日から、小浜病院の名称を「杉田玄白記念公立小浜病院」に変更しました。

杉田玄白は、小浜藩の藩医であり、「解体新書」の発刊により日本の偉人として、単に医学だけではなく、科学全般の偉大な人物として多くの人に知られています。

「日本の医者なら知らない人はいない杉田玄白の名前を冠するということは非常に責任重大ですが、誇りでもあります。これからも職員が誇りを持って病院機能を充実させることにより、地域医療の発展と充実を図っていきます。

また、「杉田玄白の小浜病院」と病院の存在も全国にアピールしていきたいと思えます」と小西病院長は話します。

小浜病院では、杉田玄白の業績をしのんで、本館一階に「杉田玄白コーナー」を設置しました。解体新書、杉田玄白に関するパネル展示、当時の小浜城下鳥瞰図などを常時展示しています。



解体新書

問い合わせ  
杉田玄白記念公立小浜病院  
総務課 ☎52・0990